

ソースファイル「20251107_風の村管理本部経理部経理課.m4a」の内容に基づき、経理部経理課の職員へのヒアリング詳細メモを作成しました。

このセッションでは、理事長が重視する「アーバン経営」の運用(詳細な安分計算)が、現場の経理担当者にとって「果てしない手作業」と「心理的葛藤」の源泉となっている実態が赤裸々に語られています。

ヒアリング詳細メモ：経理部 経理課

日時: 2025年11月7日 対象: 経理部 経理課 職員(複数名、管理職除く) インタビュアー: 上田(コンサルタント)

1. 業務の全体像と特性

- 主な業務: 伝票チェック、仕訳入力(MJS)、月次決算、支払業務(月200件程度)、資金繰り、税務処理。
- 体制: 拠点(エリア)ごとに担当が決まっており、事業内容(介護、障害、保育など)が多岐にわたるため、担当者ごとに処理内容が異なり属人化している 1。
- 決算スケジュール: 現場(事業所)から資料が届くのが翌月頭。そこから仕訳を行い、全社の月次決算が締まるのは翌月25日頃。経営層からは「遅い」と言われているが、現状の手作業では限界がある 2, 3。

2. 抱えている具体的な課題(ボトルネック)

① 「安分(費用配賦)」の迷宮とアーバン経営のジレンマ

- 1円単位の安分: 鉛筆1本、レジ袋(5円)のような少額経費であっても、複数の事業所(部門)に費用を割り振る「安分」作業が必須となっている。例えば「5円のレジ袋を4事業所で割って1円ずつ入力し、端数を調整する」といった不毛な作業が発生している 4。
- 統一ルールの欠如: 安分のルール(面積比、人数比など)は統一されておらず、各拠点の所長の裁量や「癖」に依存している。そのため、経理側で自動化や正誤判断ができない 5, 6。
- 携帯電話代の処理: 約400台の携帯電話の請求データが来るが、所長ごとに「A事業所50%、B事業所15%...」といった複雑な安分指定があり、Excelで管理して手入力している 7。
- 心理的葛藤: 担当者は「ここまで細かくやる意味があるのか?」と疑問を感じているが、「アーバン経営の指針(1円の差でもこだわれ)」があるため、簡略化を提案できず「モヤモヤ」している 8。

② データの分断と「多重入力」

- 手入力の常態化: 会計システム(MJS)へのインポート機能が使いこなせておらず、基本的には**「手入力」** (コピー機能含む)で仕訳を行っている。「果てしなく多い」入力作業に追われている 9, 10。
- 二重管理: 請求課が作成した「売上データ」や「水筒データ」が経理システムに連携されず、経理側で**「同じ数字を再度入力」**している。これにより入力ミスや確認作業が発生している 11。

- 「資金移動」の消込: 本部が立て替えて払った費用を、各事業所の「貸し借り」として処理する際、事業所名が似ているため入力ミスが多発。月次で合わなくなり、原因究明に月30時間以上を費やしている 12-16。

③ 現場(事業所)とのコミュニケーションコスト

- 不明確な依頼: 現場から回ってくる伝票に「安分指示がない」「不明確」なものが多く、入力そのものより**「確認・問い合わせ」**に時間が取られている。「現場が決めるべきことを、なぜ経理が探偵のように調べなければならないのか」という不満がある 17。
- 問い合わせ対応: 現場から「勘定科目はどれ?」「研修費は誰持ち?」といった規定に関する問い合わせが多い。過去の会議資料や規定を探すのに時間がかかっている 18。

④ 突発業務と役割分担の曖昧さ

- 入札・プロポーザル対応: 行政の委託事業(相談事業など)の入札やプロポーザル(企画提案)の時期になると、所長から直接担当者に「見積もり作って」と依頼が来る。本来は事業部の仕事だが、断れず残業して対応している 19-22。

3. コンサルタント(上田氏)の分析・示唆

- 「アメーバ経営」の運用の再考: 精神論としての「細かさ」と、事務コストのバランスが崩れている。「1円単位の安分」が経営判断にどれだけ寄与しているか疑問視される。
- システムによる解決:
- 安分の自動化: 「誰(どの部署)が買ったか」さえ入力すれば、システム裏側の「知識データ(安分ルール)」に基づいて自動で仕訳が切れる仕組みにすべき 14, 15。
- 社内ナレッジAI: 「規定」や「過去の会議決定事項」をAIに学習させ、現場からの問い合わせに自動回答させる仕組みが有効 23, 24。
- 「一期通貫」の実現: 請求システムや現場の入力データが、そのまま会計まで流れるパイプラインが必要 25。

4. 現場からの「変だ」と思うこと(気づき)

- AI-OCRの挫折経験: 以前、振込用紙のAI-OCR読取を試みたが、手書き文字の認識率が悪く「手と目でやった方が早い」となり立ち消えになった経緯がある。しかし、技術進歩への期待はある 26, 27。
- Web明細等の自動取込: 外部サイト(Amazonやアスクル等)から請求書をDLして入力しているが、これもロボット(RPA/AI)が自動で取ってきて入力してくれれば楽になるという意見が出た 28。

特記事項: 経理課の職員は、非効率を認識しつつも「アメーバ経営だから仕方ない」「所長が決めることだから」と諦めている節がある。改革には、現場のツール導入だけでなく、経営層による**「管理粒度の見直し(細かすぎる安分の廃止など)」の意思決定**が不可欠である。